

第73回 宮城県災害対策本部会議 議事要旨

1 日 時

平成23年5月12日 10時00分

2 場 所

県庁行政庁舎4階 庁議室

3 配布資料

第73回宮城県災害対策本部会議資料

4 議事要旨

○市村国土交通大臣政務官

・昨日で発災2ヶ月、1ヶ月目にも申し上げたが、これから問題が具体化していく中で様々な課題をこなしていかななくてはいけない。1日も早い復興の為、そして避難者の方が1日も早く安心した生活を取り戻して頂くことである。

・その為の目標だけはしっかりと国や県、市町村の皆さんと共有させて頂きながら取り組んで参りたい。また、国の仕事は県の皆さんが災害対策を実施しやすいように、私どもがしっかりとサポートしていきたいという思いで政府現地対策本部を設置している。何でも遠慮なく相談頂いて具体的な課題解決を一つ一つこなしていくことが大切だと思っている。

○若生災害対策本部副本部長

・最初に応急仮設住宅の着工についてだが、第1次～6次までの着工分として、これまでに15市町において130団地11,053戸を着工、そのうち30団地3,081戸が完成した。

・今回は第7次着工予定として1,677戸を建設することが決定した。よって第7次までの場合、合計は15市町で161団地、12,730戸である。

・南三陸町からの要請により隣接する登米市のイオン南方店跡地に200戸を建設すること

にした。

- ・被災市町その他市町への建設について、南三陸町の59戸は津山町の横山住宅に建築、女川町の200戸は石巻市の石巻バイパス用地に建築。イオン南方店は、これに次いで3例目である。

- ・県北部の沿岸部では安全な建設用地の確保がいよいよ困難な状況で、内陸部の多くの市町村や企業等からも用地提供の申出を頂いている。被災者の皆さんの地元に残りたいという心情は十分ご理解をした上、復興に向けいったん内陸部に移る決断をして頂ければ、より安全な仮設住宅をスピーディーに建設することができる。

- ・県では必要な応急仮設住宅を必ず皆様のご要望とおりに準備するので、被災者の皆様には他市町への入居を視野に入れまして是非ご理解を頂くようお願いを申し上げる。

○小野寺危機管理監

- ・被害状況について、死者数が8,839人、行方不明者が5,892人である。
- ・被害額は若干増加し、2兆2,860億円強である。
- ・現在、災害対策本部を2階講堂に設置中であるが、天井が被災したため、復旧工事に取りかかる予定である。災害対策本部を5月14日土曜日から5階の危機管理センターに移動する。作業は13日の金曜日夕方以降に移動作業し、14日からは5階の危機管理センターが災害対策本部になる。

○仙台管区气象台

- ・今夜から明け方にかけて、低気圧及び前線の影響で大荒れが予想される。
- ・当初台風第一号の影響についても懸念されたが、台風は熱帯低気圧に変わって今後更に弱まって行き、消滅するという事で大雨風の影響がなくなったという状況である。
- ・低気圧が今夜には日本海に進み、その後明日朝に三陸沖に進むので天気は崩れる。

- ・今日夕方から降出しは弱い雨で、丁度日付の変わる頃から明け方にかけて激しい雨になり、雨量的には1時間30mm程度の雨、24時間総雨量でいうと100mm位の雨になる。

- ・震災後のまとまった雨になる。今回は低気圧や前線の雨ということで県内広範囲で雨になる。特に南東風が強く吹くので山岳の南東側に面した斜面、例えば気仙沼地域、栗原市から東地区にかける奥羽山系付近で多くなる傾向である。

- ・1時間に30mmの雨が降りますので、低い土地では浸水及び冠水の恐れが高まる。内陸地では土砂災害が起こりやすくなるので十分な警戒が必要である。

- ・今夜から南東の風が強まり海上では波が3m位予想される。明日は低気圧が通過した後、西風が変わってやはり風が強い状態が続くので、海上でも十分警戒して頂きたい。

○総務部長

- ・前回から変更なし。

○震災復興・企画部

- ・石巻線、昨日までは5月中旬に運転再開見込みだったが、5月19日に再開見込みとなった。開通すると仙台から東北本線小牛田を經由して前谷地、石巻が鉄道路線が通ずるということで、矢本中心に復興するのではないかと考えている。

○小泉環境生活部長

- ・福島第一原子力発電所事故のモニタリング結果について、低い数値で安定している。

- ・昨日、企業局の水道水の放射能測定について結果が出た、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも不検出という状況である。

- ・海水の放射能測定結果。前回4月13日に測定を実施した際は海上の天候が悪く鮎川湾の海水測定にとどまったが、昨日当初の予定とおり福島原発から60km、80km、100kmの三点の深さ10mから海水を採取致し分析。いずれの地点においても放射性ヨウ素、

放射性セシウムは不検出という結果だった。

○岡部保健福祉部長

・災害ボランティア活動，連休中に多くの方に活動して頂いたが，週が明けやはり人数が落ちた。しかし，10日は600名程増えて2,362名と徐々に増えてきている。引き続きボランティアの確保に努めていきたいと考えております。

○河端経済商工観光部長

・ご報告する内容はなし。

○千葉農林水産部長

・特に変更なし。

○橋本土木部長

・雨が降ると大変心配されることが多々ある。特に河川の関係，堤防がかなり弱っていること，瓦礫の処理もやっているが川の中にまだ瓦礫が存在するということが，断面が十分確保できない所もあるということに加えて地盤沈下している所もある。气象台からの話も踏まえしっかりと対応して行きたい。

○自衛隊

・昨日の実績，生活支援，行方不明者捜索を実施しているが生活支援の入浴支援以外は若干減少傾向にある。

○警察本部

・昨日のご遺体の収容状況は，新たに遺体8体を収容し，累計8,963体収容した。うち遺族へ7,546体，市町村へ1,291体引き渡し，引渡率は98.6%である。

・4日から10日の1週間の収容数は84体。1日平均12体、そのうち54体、64.3%は陸上から発見され、更に約半数の26体は石巻市内、そういった所を中心とした瓦礫の下が一番のポイントとなっている印象がある。

・県警内部の話だが、5月16日に災害警備本部の中に新たに行方不明者対策部、被災地治安対策部2つの組織を立上げたいと思っている。この趣旨は、発災後2ヶ月が過ぎ、県警の人事異動が退職者以外凍結されており、明日13日付けで人事異動を行う。

・この機会に行方不明者の捜索を中心とした行方不明者対策と被災地の治安の確保の二本柱が最重点であることを部内外で明らかにするという趣旨である。従って、やることに従来から大きく変わる訳ではない。

・一つはその二つに重点を置くこと、もう一つは関係している業務のコーディネート、統括、情報共有をより強めたいという考えである。

・行方不明者対策において、捜索をより重点箇所へ派遣する為、検死班の行うご遺体の発見場所等の関係情報を共有し、最近頻繁に発見されている所、今後発見される可能性が高い地域を詳細に整理し捜査班に繋げたり、遺族支援班や行方不明者班はご遺族の対応又は行方不明者相談ダイヤルで得た膨大な情報を精査し可能な限り近い所に踏み込み、行方不明者の方の同地区の方がどこで発見されたというデータをなるべく通報して行きたいと考えている。

・合わせて、身元資料班が明日からDNAの資料の受付を本格的に行うが、こちらの業務もしっかりとコーディネートして行きたい。全体としての行方不明者対策をより強力で推進されるようにして行きたい。

・沿岸の各9署にも同様の業務を行い、縦や横の連携を強くして行きたい。

・被災地治安対策部も同様、現在多様な形で街頭パトロールあるいは徒歩による集団パトロール、避難所を訪問して被災者に安全安心をお届けすることを行っていく。

・交通対策についても依然として滅灯している場所を中心に交通整理を行っている訳だが、

これらの業務をより統括した形、具体的には被災地から上がってくる多様な治安のニーズを集約し、対応にあたっている交通対策班又は事件捜査班に繋げて行くこと、安全安心の情報についても従来も行っておりますがシステムティックかつタイムリーな形でお届けしたいと考えている。行政連絡官というのは私共で対応できない部分もあるが、被災者のニーズとして警察に関連する形で吸い上がってくるケースもあるので、そういったものは他機関にいち早く連絡する形で被災地の治安対策を強化して行きたい。

○小林教育長

・公立学校等の被害状況、生徒・児童の死者が県全体として294名と前回より3人増加した。

・内訳は県立高校1名、名取市内の中学校で2名、また行方不明者が1名増加した。

○伊藤企業局長

・特になし。

○若生災害対策本部副本部長

次回5月13日10時00分に開催する。